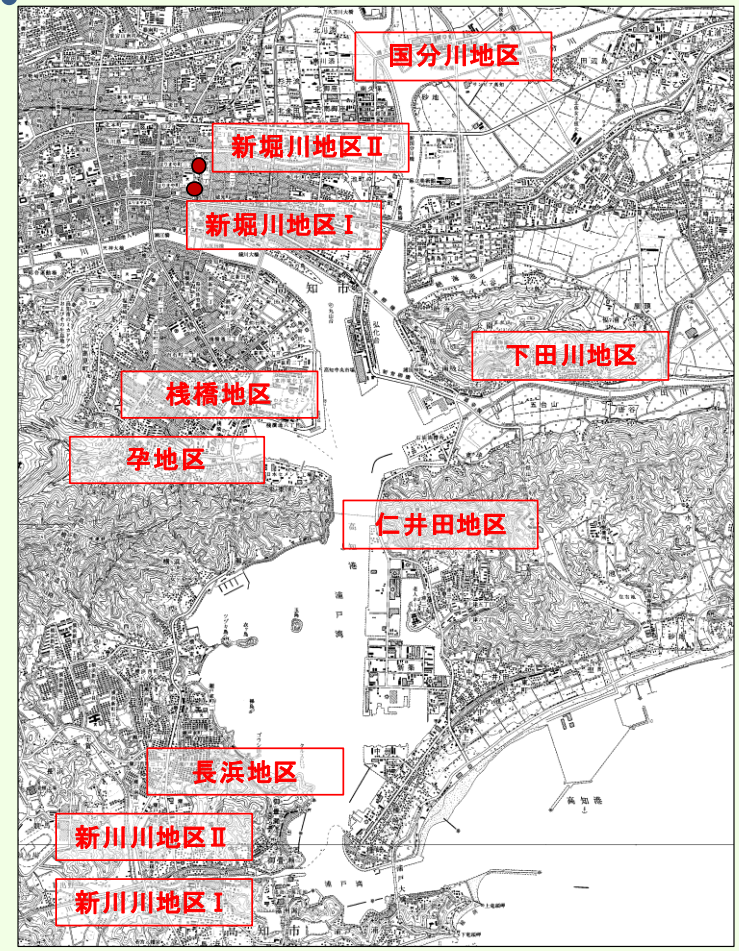
シオマネキの個体数調査の検証結果

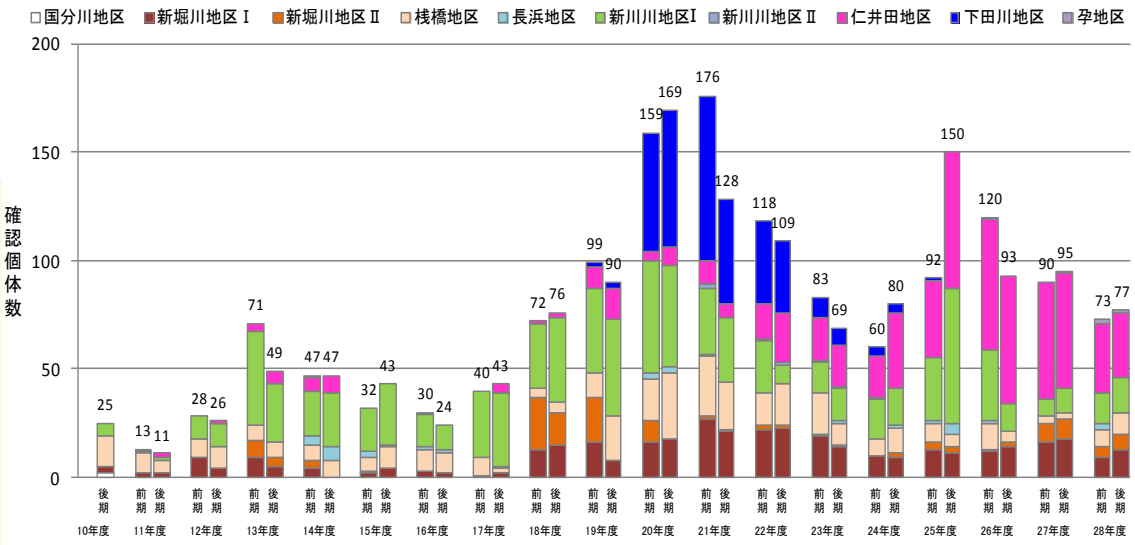
目的

県では、都市計画街路事業の実施に伴い、その影響を受ける希少な動物のシオマネキ個体群を保全するため、移植を行った造成干潟等の生息状況のモニタリングを行ってきました。

モニタリング地区（浦戸湾10地区）



浦戸湾10地区における確認個体数の推移



検証結果

- 新堀川地区Ⅰでは、泥質状態が継続して維持される干潟環境の面積が拡大すれば、更にシオマネキが定着する可能性が考えられます。
- 新堀川地区Ⅱ(はりまや町一宮線の道路完成区間)でも、継続的に確認されています。個体数に年変動がありますが、新堀川地区Ⅰと同様に水の流れや河床材料の影響によるものと考えられます。
- 桟橋地区と新川川地区Ⅰの造成干潟は、比較的安定した底質が形成されているとともに、シオマネキの主要な生息地となり、現在も干潟として機能しています。
- 浦戸湾全体として、継続的にシオマネキの生息が確認されており、浦戸湾は高知県内の主要な生息域といえます。

新堀川地区Ⅱの状況

シオマネキ